

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則

2023 年度日本陸上競技連盟競技規則、日本マスタース陸上競技連合競技規則・競技細則および第 44 回全日本マスタース陸上競技選手権大会 2023 山口大会競技注意事項により実施する。

2. 競技者の招集

競技に出場しようとする者(以下「競技者」という)は、競技者招集所において出場の手続きをし、競技役員の点呼を受けなければならない。

- (1) 招集所は主競技場および補助競技場で行う競技、すべて本競技場第 2 ゲートの外のテント内に設ける。
- (2) 招集時刻は、競技日程に示された競技開始時刻前、下記の時間とする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技・各種目 各クラス	30 分前	20 分前
フィールド競技・各種目 各クラス	40 分前	30 分前
フィールド競技 棒高跳	60 分前	50 分前

※ 時間厳守のこと。上記の時間に遅れた競技者は出場できない。

- (3) アスリートビブス(胸・背)およびシューズ・スパイクを提示できるよう準備のうえ、招集所で待機し、商標の点検を受け、点呼を受ける。携帯電話を持ち込んでいないか確認を受ける。
- (4) 他の種目に出場している等で、点呼を受けられない特別な場合は、事前に「2 種目同時出場届」を招集所に提出する。
- (5) 招集完了時刻までに所定の手続きをせず、また点呼を受けない競技者は、当該種目を棄権したものとみなす。
- (6) 点呼を終了した競技者は、指定された場所で待機し、競技者係員の誘導に従って競技場所に移動する。
- (7) 競技後の退場についてはダッグアウトを通行し、第 1 ゲートより退場すること。

3. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは、競技者受付時に一人につき 2 枚交付する。
- (2) 競技者は、交付されたアスリートビブスを胸と背にそのままの状態に付け、安全ピンで四隅をとめる。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背のいずれかに付ければよい。走幅跳・三段跳時は胸につける方が運営上好ましい。
- (3) **トラック競技(800m 以上)に出場する競技者には、招集所で腰ナンバー(シールタイプ)を 2 枚配布するので、左右の腰に貼り付ける。**
- (4) アスリートビブスおよび腰ナンバーは返却不要である。

4. 練習会場

- (1) 練習は指定された場所・時間で行い、事故防止には万全を期すこと。なお、練習中に発生した疾病や傷害等については、応急処置は主催者において行うが、以降の責任は負わない。
- (2) 会場内への入退場は必ず A D カードを明示する。また、荷物等については、個人が責任をもって管理すること。(盗難等については、各自の責任で十分留意すること。)
- (3) 使用日程は、下記のとおりとする。

競技場	場所	10月6日(金)	10月7日(土)	10月8日(日)	10月9日(月)
主競技場	トラックのみ	13:00～16:00	7:00～8:00	7:00～8:00	
補助競技場	トラックのみ	13:00～16:00	8:00～17:00	8:00～17:00	7:00～15:30
弓道場横芝広場	全面		8:00～17:00	8:00～17:00	8:00～15:30
ちよるる広場	全面		8:00～17:00	8:00～17:00	8:00～15:30

※すべての競技場で、危険防止のため投てき競技用具を使用した投てき練習はできない。

※補助競技場は、3日間投てき競技が行われているので、使用にあたっては係員の指示に従うこと。

なお、トラックに於いては、中長距離3・4レーン、短距離5・6レーン、ハードル7・8レーンを使用する。また、フィールド内には絶対に入らないこと。

※跳躍競技については、補助競技場のみ練習できる。ただし、棒高跳は主競技場での練習とする。

※ハードル等の競技用具を使用する場合は、準備・片づけを各自で責任をもって行うこと。

5. 表彰および記録証について

- (1) 記録は、QRコードによるインターネットで確認すること。なお各県への記録表配布は行わない。
- (2) 記録証を申込んだ者は、記録証配布場所（TIC付近）で大会開催中受け取ること。郵送手続きをしていない者には、後日の発送はしない。
- (3) 表彰は1位～6位の入賞で、賞状・メダル等を受け渡し場所（正面エントランス内）で受領すること。表彰式は行わない。ただし、世界記録・日本記録の樹立者については栄誉をたたえるため、表彰式を実施する。

6. レーン順・試技順

- (1) トラック競技のレーン順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載の番号順とする。

7. 事故防止

- (1) 大会期間中すべての競技者は、競技役員（セーフティージャッジ及び他の競技役員）から『競技への出場または競技の続行が危険』と判定された場合は、その時点で競技出場及び競技続行はできない。
- (2) 競技者はセーフティージャッジ及び競技役員の判定に従わなければならない。
- (3) 判定に従わず、競技に出場または続行した場合の記録・順位は一切認めない。

8. 競技について

- (1) 競技者の出場する競技種目の変更・追加は一切認めない。
- (2) 年齢に不正があった場合は、失格となる。
- (3) 競技用具、競技用靴について
 - ① 競技に使用する用器具は、棒高跳び用ポールを除き主催者が用意したものを使用する。
 - ② フィールド競技に使用するマーカーは、走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・やり投では2個まで、それ以外の種目では1個使用できる。使用した場合は、競技終了後、各自の責任で片づけること。
 - ③ 日本陸上競技連盟規則 TR5.2 および「競技用靴に関する規定」による。
- (4) 競技者は、携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー・カメラ等の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (5) 競技場内に持ち込むものについては「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用するので招集所にて競技役員の点検・指示を受けること。
- (6) 競技進行のタイムテーブルは、変更もあり得るので、アナウンスには注意すること。

(7) トラック競技

- ① 同クラスが複数組の場合、すべてタイムレースとする。
- ② 1/1000 秒まで同タイムの場合は生年月日の早い者を上位とする。
- ③ 短距離走では、危険防止・競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も割り当てらレーンに沿って走ること。
- ④ 不正スタートについては、TR16.7、16.8 を適用する。
- ⑤ 不適切行為 (TR16.5) における警告 (YC) はすべての競技において同競技日のみの累積とし、別競技日に繰り越しはしない。
- ⑥ リレーについては、チームの代表は、リレーオーダー用紙に必要事項を記入の上、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出する。リレーオーダー用紙は、競技者係から受け取る。なお、オーダー用紙提出後の変更は、原則として認めない。
リレー登録者以外の競技者を走者とする場合、変更は本大会参加者より 2 名以内とする。なお、高齢者が低年齢層のクラスの走者として出場することができる。ただし、個人種目にエントリーしていない競技者が出場することはできない。
- ⑧ ハードル競技・障害物競走の**種目別基準**は、**実施要項の別表 1、2**のとおりとする。
- ⑨ 3000mSC・2000mSC では、跳び越す際に手をついてもかまわないが、障害物をよじ登る、障害物の中間のバーまたはクロスバー等に足をかけて上がってはならない。
- ⑩ 長距離種目は、クラスごとに制限時間を設け、この時間が過ぎた場合は、新しい周回に入らない。なお、複数クラスをまとめた組とした場合は、長い方の制限時間を適用する。

制限時間については、**実施要項 20.競技実施細目(1)**のとおりとする。

※ 競技進行上、800m で4分 1500m で9分を超える競技者の競技を中止することもある。それ以外の種目でも、競技進行上支障のある場合は、その競技者の競技を中止することもある。

(8) 跳躍競技

- ① 試技順は、全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中、他の種目競技に出場する者は、審判主任に申し出る。その場合、トラック競技を優先し、フィールド競技については本人希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。
- ② 走幅跳・三段跳の試技数は各クラスのトップ8(同記録の者が複数ある場合はすべて)を決めるまでは3回とする。トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。
- ③ 走高跳および棒高跳以外で同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は3番目の記録で比較し、以下同様にして決める。それでも決められない場合は、生年月日で早い者を上位とする。
- ④ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方基準は、**実施要項の別表 4・6**のとおりとする。ただし、グランドコンディションや競技者の状況によっては跳躍審判長の判断により変更して実施することがある。
- ⑤ 走高跳・棒高跳で最高位が同記録の場合ジャンプオフは実施しない。その場合無効試技数の回数で順位を決めるが、それでも決まらない場合は、生年月日で早い者を上位とする。
- ⑥ 走幅跳・三段跳の**踏切位置**については、**実施要項の別表 5**のとおりとする。競技者は、審判員に事前に申告した踏切位置で競技する。

(9) 投てき競技

- ① 試技順は、全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中、他の種目競技に出場する者は、審判主任に申し出る。その場合、トラック競技を優先し、フィールド競技については本人希望によ

る。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。

- ② 各クラスのトップ8(同記録の者が複数ある場合はすべて)を決めるまでは3回とする。トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする
- ③ 順位については、同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は3番目の記録で比較し、以下同様にして決める。それでも決められない場合は、生年月日で早い者を上位とする。
- ④ 円盤投・ハンマー投については、補助競技場で実施する。
- ⑤ 投てき競技用具の**最小重量基準**は、**実施要項の別表3**のとおりとする。

9. その他

- (1) 所持品類(貴重品を含む)は、各自で保管すること。万一事故があっても**主催者側では、一切の責任を負わない**。
- (2) 届けられた遺失物については、競技者案内所(TIC)で保管する。保管期間は、10月9日の競技会終了までとする。
- (3) 応急処置を必要とする事故が発生した場合、医務室で処置を行うが、それ以降の責任は負わない。応急処置以降の治療費等の経費は本人負担とする。
なお、大会関係者全員に対して、傷害保険に加入する。
- (4) ゴミ類は、会場に残すことなく、すべて各自の責任で持ち帰ること。

10. 提出書類

提出は以下のとおりとし、各書類を提出時刻までに所定の場所に提出すること。

	書類の種類	提出先	提出時刻
1	欠場届	招集所(競技者係)	招集開始時刻まで
2	2種目同時出場届	招集所(競技者係)	第1種目の招集開始時刻まで
3	リレーオーダー用紙	招集所(競技者係)	当該組の招集完了時刻の1時間前まで
4	棒高跳アップライト申告書	招集所(競技者係)	招集開始時刻に
5	抗議申し立て(口頭)	T I C	大会要項参照
6	上訴申告書	T I C	大会要項参照
7	プログラム訂正届	T I C	10月6日は、14時00分まで 10月7日~10月9日は、 〔午前種目：8時00分まで 午後種目：10時00分まで〕

※上記の書類は、競技者係またはT I C (競技者案内所) で受け取る。

㊟**競技場建物内の諸室に、選手の控室はありません。諸室への入室はご遠慮ください。**

競技以外での競技エリアの入場はできません。また、競技エリアでの応援は助力となります。